

姫路海軍航空隊白鷺隊



遺書・遺詠集

目次

平和祈念の碑苑に刻まれた碑歌

1

【写真】 鶉野飛行場跡 平和祈念の碑苑

2

【写真】 白鷺隊出撃基地 鹿屋市串良平和公園

3

【写真】 鶉野飛行場

4

【写真】 惜別

5

【写真】 特攻に使われた白鷺隊の飛行機

6

【写真】 最後の声

7

はじめに

8

遺書	遺書	遺書	遺書	遺書	遺詠	遺書	遺書	遺書	遺書
海軍少尉候補生	海軍少尉候補生	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉候補生	海軍少尉	海軍少尉	海軍大尉
野元 純	栗村 敏夫	小室 静雄	山田 鐵雄	溝川 隆	大岩 虎吉	福田 茂生	海田 茂雄	湯川 俊輔	佐藤 清

25 23 21 20 17 15 13 11 10 9

遺書 海軍少尉候補生 菅田 三樹雄

遺書 海軍二等飛行兵曹 椎根 茂

遺書 海軍二等飛行兵曹 大谷 康佳

遺詠 海軍二等飛行兵曹 三井 傳昌

遺詠 海軍二等飛行兵曹 藤村 勉

遺詠 海軍二等飛行兵曹 富樫 幸夫

遺書 海軍二等飛行兵曹 渡邊 與四三

遺詠 海軍二等飛行兵曹 小林 昭二朗

連合艦隊戦闘詳報

おわりに

参考文献・協力

27

29

31

33

34

35

37

38

39

42

43

平和祈念の碑苑に刻まれた碑歌

美しく空に

果てたり鶉野の

雲夕焼けて

朱くたゆとう

西宮空 赤刎正夫

詠者 西宮海軍航空隊姫路派遣隊
第十四期甲種飛行予科練習生

神戸市 赤刎正夫

詠者所感 平成十一年十月一日

日本海軍軍人の何と清いことか、その精神の何と美しい事か父母姉妹たちの住む祖国日本を護らむと、あたらしい生命を投げ捨て、ここ姫路海軍航空隊鶉野飛行場より、神風特別攻撃隊『白鷺隊』として出撃全機敵艦に体当たり、ひとり残らず沖縄の海に散華したのです。愛する者たちの為死ぬ。

人間としてこれ以上悲しくも美しい死が有り得ようか、彼らを見送った海軍軍人も、そして地元鶉野の人々も其の功を偲び感涙に咽んだのです。

そして今日も鶉野の里に佇ち振り返れば西天に、彼の碑と同じ夕日が朱の色赤く正に沈まんとして、夕雲は赤くたゆたっているのです。

彼の日の特攻兵の血と魂の色をして。

はじめに

神風特別攻撃隊、その名は勇ましく華々しいが、これほど悲しく悼しく、涙なくして呼べない名は、他になく考えられない。

ここ鶉野の地に在った姫路海軍航空隊でも白鷺特別攻撃隊（姫路城の名を取った）が編成され、昭和二十年三月二十三日に鶉野の地を出陣して行つた。

昭和二十年四月六日、第一護皇白鷺隊の特攻機が鹿児島県串良基地より出撃し、沖縄のアメリカ艦船に体当たり攻撃がかけられた。

その後の出撃で白鷺隊六十三名の若人の尊い命が失われた。

此処に、加西郡鶉野（現加西市鶉野町）の地より出撃して散華された、姫路海軍航空隊の搭乗員の「遺書」を記録し、この事実が風化されないために、後世に語り伝えられることを望むものである。

遺書

第一護皇白鷺隊 分隊長

海軍大尉 佐藤 清

大分県 三十九歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺にて戦死

姫路空宛御手紙、基地にて四月一日拝受、感激深く読みました。今更何お申す事がありません。

只菅天壤無窮神州不滅を確認し、必死必中誓って、

皇恩に報い郷恩に応じ、家名の全からんを欲し、
驕敵撃滅の神機に投ずるのみ。

後事は只貴女様を信じ、

何の言うべき辞もありません。

御言葉の生まれ出る赤ちゃんの名は如何。

男なら 佐藤 勝利（カツトシ）

女なら 佐藤 征子（セイコ）

昌志や裕子殿元気で、素直な立派な日本人に育っておくれ。

ご一同様の御長久と御隆昌を祈って居ります。

では左様なら。

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 湯川 俊輔

大阪府 二十六歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺洋上にて戦死

二十五年の長きにわたり
色々と有難う御座居ました。

いよいよ私も皇孤高の御楯と
なり得る時が来しました。

元気で征きます。

一機命中きつと皆さまの御期待の
副える覚悟で御座居ます。

母上どうか元気でいてください。

大日本帝国は絶対に負ける事なく
ますます栄える事を信じます。

詔子を大切に元気に

そだてて下さい。

ではこれで御別れ致します。
では元気で。

十億の人に十億の母あれど

わが母に優る母は

あらめやも（源 実朝）

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 海田 茂雄

愛媛県 二十三歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺洋上にて戦死

私比度特別攻撃隊和気部隊護皇白鷺隊
ノ一員トシテ攻撃ニ参加致ス事ト成リマ
シタ。
愛機ト共ニ敵艦ニ散ル、武人ノ本懐之ニ
過グルハ無シト心ヨリ満足致シテ居リマ
ス。

人生二十三年、思エバ何一ツ御恩返シノ
出来ナカッタ私デハアリマシタガ、モトヨ
リ国ニ捧ゲタ体、笑ツテ私ノコト許シ下サ
イ。戦ハ益々重大時期ニ突入致シマシタガ、
私ハ皇国ノ必勝を信ジテ居リマス。

後ニ続ク者ヲ信ジテ居リマス。私ハ笑ッ
テ敵艦ニ体当タリヲ致シ、皇恩ノ万分ノ一
ニモ報スル覚悟デス。

日本人ト生レタコトヲ今日程有難ク思
ッタコトハ有リマセン。

ミタミワレ生ケル験シアリ

天地ノ栄ユル時ニアヘラクオモヘバ

コノ古歌私ノ心ソノママデス。

国民学校、中学校、師範学校ノ恩師ノ方、

親戚一同、御伝エ下サレ度。最後ニ家内一
同ノ御多幸ヲ御祈リシマス。
海軍少尉 海田茂雄
父上様
母上様



突入寸前のヒメ 315 号機

操縦：海田茂雄少尉 偵察：俵一夢 電信：渡邊與四三

遺書

第二護皇白鷺隊

海軍少尉候補生 福田 茂生

島根県 二十四歳



昭和二十年四月十二日
沖繩周辺艦隊に攻撃し戦死

いざ行かん秋は来にけり

君が代を千代に寿ぎ若桜花

二十四年間の間、何一つとして為すを得ず。只、徒に御心配のみ御掛けしました。大の親不孝にお許し下さい。長々のお世話実に有難う御座いました。私儀愈々日本男児として栄えある帝国海軍搭載員士官として、皇国危急に際、護国の大仕を双肩に担って立つことになりました。一機能く一艦を撃沈し得る事であります。

同じ一期予備生徒として空の守りを目指せる同期生に中より真先選ばれし身の光栄を喜んでください。必ずや一族の名誉のため一生懸命に頑張つてやります。万朶の桜と時を同じく散って行くのもまた最も本懐とする所であります。皇国の千代八千代の莞爾として行きます。

未筆ながら御皆々様の永へに御健康を
御祈りして止みません。なお御兄弟様には、
なにとぞ御両親様の事を呉々も御願ひ致
します。

茂生 拝

御両親様
御兄弟様



串良基地を出発する特攻機九七式艦上攻撃機

遺詠

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 大岩 虎吉

愛知県 二十七歳



昭和二十年四月六日
沖繩艦船攻撃し戦死

敷島の大和男子の
名を負ひて
にほいゆか志き
花と散らまし

われをきく
愛欲苦悩の
ぜつへきに
求めしてしる
魂のあり
かを

なやみにも
おのくるしみにも
さからはで
しるしみなや無は
世のつね
なるか
和気隊護皇白鷺隊
潔よく櫻と共に
散りゆかむ

大岩虎吉

大和男子の
名に恥ずして
妻子を残し出撃するこの心境を残された。



戦後、加西に来られた大岩少尉の奥様と娘様

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 溝川 隆

兵庫県 二十三歳



昭和二十年四月六日
沖繩艦船攻撃し戦死

皇國に生を受けてより
二十餘年其の間私の如
き者の面倒を見て下さ
れし事を厚く御礼
申し上げ候
隆は不孝者であつた
事を許し下され度
死して孝養を盡す
考へに御座候
敵艦沈めて
我は生きなむ
必ずや我々の攻撃に
より帝國は必勝
を期すものと安心
致し居り候

「唯詢國の血潮あり」
今ぞ私の死すべき時と
思ひて良き死場所を
得たと喜び乍ら
私は出て征きます

我が死後は我が家は
憂いなしと思へど

我と一緒に死んでくれる
部下の者の家の事を
くれぐれもお願ひ致候

皆様 隆は喜んで死にのぞ
みます
有難き此の皇國に生を
受けた事を感謝致し
て居ります

郷土『上郡』より太平洋戦争中沖縄の

海に散華した若者がいた

海軍少尉 溝川 隆

一九四五年（昭和二十年）四月六日、太平洋戦争も後半になり、優勢を誇るアメリカ軍は沖縄に上陸を敢行し、わが沖縄守備軍では守り切れず陸海軍の航空部隊は、身を呈しておこなう体当たり攻撃を行った。兵庫県加西市に基地を持つ姫路海軍航空隊でも、特別攻撃隊が編成された。神風特別攻撃隊『護皇白鷺隊』（国宝姫路城の名前をとる）である。桜花咲くこの日、沖縄海域に展開する、アメリカ海軍機動部隊の艦船に、飛行機もろとも壮烈な体当たり攻撃を行い十七歳から二十五歳までの若人六十三名が散華された。

この中には二十二歳の兵庫県赤穂郡上郡町野桑出身の溝川隆少尉がいた。教職の身を戦争のため海軍航空隊に捧げ、航空隊の指揮官として出撃し、貴い命が失われた。

ここに、彼の絶筆となった遺書が戦後五十七年を経た今年、自宅の納屋より発見された。死に直面した文章を読み、戦争の渦中に青春時代を犠牲にした、若人がいたことを知って戴き、彼の思いを引き継ぎ、二度と戦争の無い平和な日本が続くことを祈念する。

平成十四年三月二十三日

上谷 昭夫 感読



デバイダーで沖縄までの距離を測定する特攻隊員たち

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 山田 鐵雄

東京都 二十五歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺洋上にて戦死

家族への便り

父上様

母上様

まり子

えみ子

とし子



二十七歳迄の大恩有難う御座いました。
桜花と共に散ります。

四月六日

鐵雄

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍少尉 小室 静雄

島根県 二十五歳

昭和二十年四月六日
沖繩海域にて戦死

鹿児島県串良基地にて、母「喜多」宛て
昭和二十年四月六日の手紙

拝啓、長らくご無沙汰に打過ぎ申しわけ
ありません。私も初陣の榮譽を得る日がま
り、欣快のたへません。体当たりをもつ
て先輩 関 中佐につづきます。悠久の大
義を生きる、これこそ神風精神です。二十
五歳の今年まで教育して下さった母様を
はじめ、御祖父様祖母様、親類の皆様の御
恩は絶対に忘れません。伯父様のいはれる
「如何に死ぬべきか」といふ事が理解出来
ます。今は無の精神です。この戦争で海軍
搭乗員として参加することは、一家一代末
代までの榮譽と思つてゐます。私が戦争に
参加したからには死は当然のことです。絶
対に悲しまないで下さい。清子も私の心中
はよく理解出来ると思つてゐます。
出雲大社も機上から拝し、隠岐も遠望し
ました。母様のご健康を祈ります。
（串良基地から出撃、米駆逐艦「ハリスン」

号を攻撃して戦死、小室さんの機は三人乗りの九七式艦上攻撃機。同基地から出撃したのは九十九機で、全機突入し、基地には一機も戻らなかった。戦禍は撃沈六艦。大破九艦、損傷三艦と言う。

出撃の朝、機上の小室さんは毎日新聞の阿部記者が駆け寄り「なにか伝言は？」と尋ねると、ポケットから清酒「酒見錦」の包み紙と鉛筆を差し出した。小室さんは次の文章を走り書きした。）

島根県周吉郡西郷町東町 小室 喜多 殿

「今日 元氣デ征キマス 陛下万歳 草々 同乗の副島一飛行ト野田二飛曹ノ遺族ノ方二宜敷ク」

喜多さんは母。これが絶筆となった。文中の清子さんは妹です。

小室静雄少尉は北条町の岡本昌平様宅に下宿された。



白鷺隊隊員が胸に着けた識別

遺書

第三護皇白鷺隊

海軍少尉候補生 栗村 敏夫

広島県 二十三歳



昭和二十年四月十六日
沖繩周辺にて戦死

一筆申上候

愈々敏夫もお役に立つ時が来てこんなに嬉しい事はありません。お父さんお母さんご心配をかけどうし、亦先立たんとします。お許し下さい。

敏夫死すと聞かれたなら、必ず一艦を撃沈せしものと賞めてやって下さい。

兄上、姉上、私の代わり孝行をお願いします。

姉さん、兄も何時征くか分かりません。呉々も父母と妹をお願いします。先日会へて本当に安心しました。

文子も戦局の重大を思ひ、日本人としての務めを第一に益々御励み下さい。自分いふものを忘れてはいけない。

どんな事があっても女らしき明るい心、す直な美しい心を失ってはならない。

この様に切迫して来ると女の務めは愈々大きくなるばかり、負けない様に強く

ならねばならない。
貞ちゃんもアヤちゃんも元気でしつかり勉強するんだぞ。

静子姉さんにも宜敷く、親戚、ご近所の方々にも宜敷く。皆様体を大切に、勝つまでは大事な体です。

私も勝つ日までは幾回となく生まれかはり、
仇敵撃滅に突撃します。

操縦員	山田 眞	一飛曹
指導官	栗村 敏夫	少尉候補生
電信員	大谷 康佳	二飛曹



大阪護国神社に安置された
第一期飛行専修予備生徒の慰霊碑

遺書

第二護皇白鷺隊

海軍少尉候補生 野元 純

長崎県 二十三歳



昭和二十年四月十二日
沖繩周辺にて戦死

父様 母様

時間がありませんので乱筆にて失礼します。何も申し上げることはありませんが、最後の最後まで選抜されて元気で出撃です。

僚機は既に出撃しました。これは飛行機の蓋の上で書いています。これは飛行機の

誰に恨まれることなければ、特に喜ばれることはありません。

平常と何も変わることなく、平常の心のままで落着いて突込む覚悟です。

永い間本当に種々御世話になりました。何と言って御礼申し上げてよいやら分

かりません。海山よりも高い御恩は突込むことにより、必ず御報いできると信じます。

宏三、茂三の勉強を呉々も御願い致します。人生に勉強を抜いたら何も残りません

ことは確かです。ぼんやりする時間を、で

きるだけ少なくなるよう教育して下さい。

姉様は何も心配事ありませんね。

本当に安心して征けます。凡ては父様母様のお陰です。

私も突込むことにより幾分でも祖先に報いられば満足です。

平常と何等変わらぬこと気持ち
國を思うと同じかるらん

では さようなら

急命により○○（鹿児島県串良）追出し、
明日の出撃を聴き感新なり。俺が来たため
○候補生が攻撃のメンバーから除かれた。
気の毒に堪えず、悲喜交々とはこの事か。
人間何時かは死すものなり。

死期を選ぶに運命以上のものあり。明日こそは腕に自信あり、力の限り敵艦に突込み、
護国の大任を完うせん。中西兄とも遂に別れる時が来た。

会者定離、更に未練なし。

二月末特攻隊編成されて以来訓練を重

ね、漸く出撃を得ました。

出撃に当たり「死を急ぐな」等の言葉をよく受けましたが、凡て天命です。

私の信ずる道に向かって突進します。

この二十余年の長い間、本当に種々お世話になりました。

心から御礼申し上げます。十五年間の学校生活が今こそ実を結びます。

皇国の有難さをつくづくと身に感じます。搭乗員である私のこの気持ちに本当に判って戴けると信じて、明日の功績を期しています。

些か急でしたので、親戚、恩師、親友。すべてに出状できませんので、折あり次第に各位に出状御挨拶を御願ひします。

姫路海軍航空隊

九七式艦上攻撃機（ヒメ三四一号機）

操縦員 野元 純 少尉候補生

指揮官 菅田 三樹雄 少尉候補生

電信員 澤田 久男 二飛曹

遺書

第二護皇白鷺隊

海軍少尉候補生

菅田 三樹雄

岩手県 二十一歳



昭和二十年四月十二日
沖繩周辺にて戦死

出撃に当たり一筆申し上げます。

戦局益々重大頭の秋、特攻隊の一員として選ばれました事、男子の本懐、これに勝るもの無く、只々勇往邁進あるのみであります。

過日戦友に依頼し、少額の金銭と時計をお送り致しました故、御受納下さい。

一、私事なし

二、女事無し

三、借用金品無し

母上様、兄上様、妹よ、私はただ大君国の為、一身をささげる。

皇国をして隆盛の礎たらんことのみ胸一杯なり。

母上様は病身がちならば、くれぐれも御健康に御留意の程を。

姫路海軍航空隊
 九七式艦上攻撃機（ヒメ三四一號機）
 操縦員 野元純 少尉候補生
 指導官 菅田三樹雄 少尉候補生
 電信員 澤田久男 二飛曹



第一期飛行専修予備生徒
 姫路空卒業写真

遺書

第二護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 椎根 茂

東京都 二十一歳



昭和二十年四月十二日
徳之島沖にて戦死

昭和二十年四月三日記

気のせく儘に乱筆にて断片的に私の現在の心境を書き遺します。

私此の世に生を享け二十有一年、御両親の一方ならぬ慈愛のもと私は、今に至る迄日本一の幸福者と思つて居ります。

翻つて戦局を見るに、敵は有り余るへ意欲と物資に物を言はせ、遂に迄魔の手を延ばして来ました。

三千年の光輝ある歴史を有する大日本帝国未曾有の國難に、私は特攻隊を志願致しました。一切の私心を捨てて、悠久の大義に生きます。私此の期に及び只一つ心残りは今迄私はお父さん、お母さんに只一度も安心せしめた事なく、親孝行の模倣だに出来ずに散るのが残念です。

而し、私は立派な手柄を樹てて死んで見せます。和気隊白鷺隊の戦果が新聞に出た時は私が真先に突込んで行つたと思つて下さい。

私も最後の親孝行として椎根家の名誉として驕敵米兵数千と、船一隻を必ず太平洋の藻屑として見せます。

又お父さん、お母さんにおわびしたいのは私最近家へ手紙一本も出さず、永い間御無沙汰した事でもあります。まことに申し訳無いと思つて居りましたが、小生未だ意志薄弱の為か、家より情愛のこもった手紙を戴くと、私の心が何故かぐらつくのを覚え申訳無しと思ひ居りましたが……

それから私姫路空に居りました時、下宿の人に一方的にお世話になりました。私たちは下宿の人たちを本当の叔父さん、叔母さんの様に居りました。何卒礼状の一本でも出して置いて下さい。

下宿の叔父さん、叔母さんの住所

兵庫県加西郡北条町横尾 藤原淳治様

兄さん、姉さん八重子等にも、書き残し度い事も少し有りますが、急ぎますから……兄さんは立派な体になつて私の分迄孝行をして下さい。さようなら 四月三日、

私の突込む時は必ずお父さん、お母さんと叫んで突込みます。

御両親様

茂より

遺書

第三護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 大谷 康佳

香川県 二十三歳

昭和二十年四月十六日
南西諸島方面にて戦死

家族宛 昭和二十年四月五日

父母並ニ兄弟、諸先生ノ御恩ニ感謝スル。
父母ニハ何ノ孝行モセズ死ンデ行キマス。
此ノ死ハ決シテ犬死ニハシナイ覺悟デス。
敵ノ空母ニ体当シテ見セマス。

何時迄モ神州ヲ護リマス。

今、敬子ヨリ送ッテモラッタ千人針モ腹ニ
シツカリト巻イテイマス。

又、敬子手製ノフランス人形モ私ノ飛行
機ニ乗ッテ敵空母ニ体当たり致シマス。

先日モ一ノ宮ノ上空ヲ通りマシタ。ソウシ
テ皆ノ健在ヲ祈リナガラ此ノ地ニ来マシ
タ。

今トナッテハ思ヒ残ス事ハ何モ在リマセ
ン。我ガ死ネバ今迄ノ不幸モ許テ下サルト
思ヒマス。

祖父母、父母、姉、妹ニヨロシク。

丁度私ノ分隊ニ池西ノ栗永ト言フ人ガキ
ル故、イロイロノ事は此ノ人にタズネラレ
タシ。

昭和二十年四月五日
宇佐空にて 和気隊白鷺隊 大谷康佳

昭和二十年四月五日に、特攻隊として出撃したが生還、一通遺書をしたため、同日戦死した。

九月十三日付で、一飛曹に進級、二十一年二月七日付で、「生前の武功拔群」により、海軍少尉に特別任用された。

操縦員 山田眞一等飛行兵曹

偵察員指揮官 栗村敏夫少尉候補生

遺書の中に栗永さんのお名前が出ていますが、甲飛十三期の栗永照彦二等飛行兵曹で同じく姫路空より特別攻撃隊として出撃すれど生還。

遺詠

第一護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 三井 傳昌

山梨県 二十一歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺艦船攻撃にて戦死

大君に尽くすに

道は数あれど

何にたとへん

今日の嬉しさ

昭和二十年四月六日

姫路海軍航空隊
九七式艦上攻撃機一型八〇〇キロ爆装
一二・四五 鹿児島県串良基地発進

遺詠

第一護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 藤村 勉

広島県 二十三歳

昭和二十年四月六日
沖繩周辺にて戦死

遺書なし 遺言なし

神州の不滅を信じ
己が本分に邁進し
悠久の大義に生く
さく桜 風にまかせて散りゆくも
己の道ぞ 顧みはせじ

姫路海軍航空隊
九七式艦上攻撃機（ヒメ三四五号機）
指揮官 林田 直 少尉
操縦員 山田 静夫 二飛曹
電信員 藤村 勉 二飛曹
（予備練十四期）

遺詠

第二護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 富樫 幸夫

兵庫縣 二十一歳



昭和二十年四月十二日
徳之島沖にて戦死

御父上様

小生此の度、神風特別攻撃隊員に任ぜられ男子の本懐之に過ぎたるものはありません。出撃致しましたならば敵空母に特攻致し空母諸共沖繩の海底に、沈む覚悟で御座居ます。

身は海底に沈むとも魂は必ず生きて神国を護つて居ります。

悠久の大義に生きん。御身大切に。

御母上様

此の寫眞は上海、青島、姫路、宇佐、串良の各航空隊基地に於いて私の胸に抱いて一所に飛行作業をやつて来ましたが、これから行きますから御返し致しますから

御受取下さい、私の身をよく御守り下さいまして有難う御座居ました。

家に着いたならば私の寫眞と一所に置いて下さい御願致します。

私は何も思ひのこすものではありませんが生前の不幸御許下さい。御元気で御暮して下さいませ。

姫路海軍航空隊

九七式艦上攻撃機（ヒメ三二一九号機）

操縦員 椎根 茂 二飛曹

偵察員 宮本 智也 少尉候補生

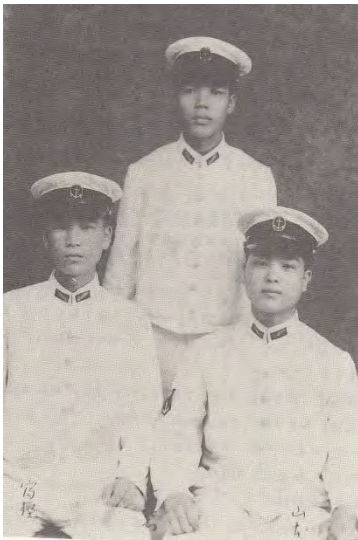
電信員 富樫 幸夫 二飛曹

四月十二日出撃前記す

上海海軍航空隊時代の同期生

左…富樫 幸夫二飛曹（明石出身）
中…高倉 条作二飛曹（加古川出身） 生存

第三十八期飛行術練習生の仲良し三人で上海の写真館で撮影した、最後の写真。



写真提供：高倉条作

遺書

第一護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹

渡邊 與四三

北海道 二十歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺洋上にて戦死

益々元氣。戦況は新聞を見る通り。
懐かしい同期生も残り少し。渴望の秋到来。
雌伏一年半ば快腕を振るうのみ。

御両親様

與四三、只今出撃します。思い残るもの
一つもなし。私ごときものの死生、問題と
するに足らず。

我、任務さえ全うすることでできれば本懐
なり。神州絶対不滅。皆様によろしく。

御両親様

義郎の霊魂も共に征かん

遺詠

第一護皇白鷺隊

海軍二等飛行兵曹 小林 昭二朗

東京都 二十歳



昭和二十年四月六日
沖繩周辺艦船攻撃にて戦死

散りぎは桜のごとくあれかしと

祈るは歩にそ常心なり

姫路空 神風特別攻撃隊 編制表

攻撃目標、 沖縄周辺ノ敵空母、戦艦及ビ支援艦艇
 攻撃時刻、 1400ヨリ1600迄ニ戦場到達突入ス
 攻撃突入時ノ通信、 攻撃目標ヲ打電後、長符連送ノ儘突入ス。
功 績

和気部隊(第10航空艦隊艦攻隊)

菊水一號作戰ニ於ケル當部隊特別攻撃隊ノ壮烈鬼神ヲ哭カシムル作戰行動ハ、
 御稜威ト天佑神助ニ依リ所期以上ノ大戦果ヲ舉ゲ以テ其ノ大任ヲ完ウシタルハ、
 千戦ニ薫ル可キ武人最高ノ營譽ヲ負フモノニシテ、本作戦ニ寄與スル所極メテ大、
 其ノ偉功顯著ナリト認ム。

和気部隊(第10航空艦隊 艦攻隊) 神風特別攻撃隊第3御盾隊131部隊姫路隊

和気部隊 護皇白鷺隊(姫路海軍航空隊)

[昭和20年4月6日 特攻出撃]

総指揮官 大 尉 佐 藤 清

1 区 隊 区 隊 長 少 尉 湯 川 俊 輔

操 縦 員

偵 察 員

電 信 員

1 番 機 (ヒメ313)	飛曹長 石井恭三郎	少 尉 湯川 俊輔	二飛曹 天野 吉三
2 番 機 (ヒメ325)	上飛曹 近田 三郎	少 尉 岡田 正	二飛曹 辻 安治
3 番 機 (ヒメ342)	少 尉 山田 鐵雄	少 尉 大岩 虎吉	二飛曹 保村 正一
4 番 機 (ヒメ312)	二飛曹 坂本 静夫	候補生 庄司 弘一	二飛曹 佐藤 志郎

2 区 隊 区 隊 長 少 尉 俵 一 夢

1 番 機 (ヒメ315)	少 尉 海田 茂雄	少 尉 俵 一夢	二飛曹 渡邊與四三
2 番 機 (ヒメ317)	二飛曹 須藤 賢	少 尉 田原 拓郎	二飛曹 長島 義茂
3 番 機 (ヒメ345)	二飛曹 山田 静夫	少 尉 林田 直	二飛曹 藤村 勉
4 番 機 (ヒメ343)	上飛曹 榎井 利夫	少 尉 志澤 保吉	二飛曹 堀江 敬司

3 区 隊 直 率

1 番 機 (ヒメ305)	大 尉 佐藤 清	中 尉 伊藤 直誉	二飛曹 松本源之進
2 番 機 (ヒメ337)	二飛曹 藤沼 良平	候補生 菅田三樹雄	二飛曹 朝生 和男
3 番 機 (ヒメ302)	上飛曹 中安 邦雄	少 尉 岩本 京一	二飛曹 三井 傳昌
4 番 機 (ヒメ327)	上飛曹 福野 重敏	少 尉 竹内 孝	二飛曹 福喜多重一

4 区 隊 区 隊 長 少 尉 溝 川 隆

1 番 機 (ヒメ323)	少 尉 松永敏比古	少 尉 溝川 隆	二飛曹 小林昭二郎
2 番 機 (ヒメ347)	一飛曹 副島 幸雄	少 尉 小室 静雄	二飛曹 野田 哲夫

帰着

神風特別攻撃隊第三御盾隊131部隊姫路隊
(昭和20年4月12日 特攻出撃) 沖縄周辺艦船群 特別攻撃

姫路海軍航空隊

指揮官 少尉候補生 野 元 純			
6 区 隊 直 率	操縦員	偵察員	電信員
1 番 機 (ヒメ341) 候補生 野元 純	候補生 菅田三樹雄	二飛曹 澤田 久男	
2 番 機 (ヒメ346) 二飛曹 田中謙四郎	候補生 土家 孝一	二飛曹 加藤 昭夫	
3 番 機 (ヒメ326) 候補生 福田 茂生	候補生 古家 純男	二飛曹 森 久	
4 番 機 (ヒメ329) 二飛曹 椎根 茂	候補生 宮本 智也	二飛曹 富樫 幸夫	

八幡隊戦闘詳報 第四号

神風第3護皇白鷺特別攻撃隊
(昭和20年4月16日 特攻出撃) 嘉手納沖艦船群特別攻撃

姫路海軍航空隊

1 区 隊 直 率 区 隊 長 栗村 敏夫 候補生			
	操縦員	偵察員	電信員
1 番 機 (ヒメ) 一飛曹 山田 眞	候補生 栗村 敏夫	二飛曹 大谷 康佳	
2 番 機 (ヒメ) 二飛曹 羽生 國明	候補生 原 正	二飛曹 入江 義夫	
2 区 隊 区 隊 長 後藤 惇 候補生	2機とも帰着す		
帰着 1 番 機 (ヒメ) 候補生 後藤 惇	候補生 山田 又市	二飛曹 水野 健二	
帰着 2 番 機 (ヒメ) 二飛曹 藤沼 良平	候補生 田中幸右門	二飛曹 細野 登一	

八幡隊戦闘詳報 第六号

神風白鷺赤忠特別攻撃隊
(昭和20年4月28日 特攻出撃) 沖縄周辺艦船特別攻撃

姫路海軍航空隊

1 区 隊 直 率 区 隊 長 後藤 惇 候補生			
1 番 機 (ヒメ) 候補生 後藤 惇	候補生 山田 又市	二飛曹 水野 健二	
帰着 2 番 機 (ヒメ) 二飛曹 藤沼 良平	候補生 田中幸右門	二飛曹 細野 登一	

八幡隊戦闘詳報 第七号

神風白鷺揚武特別攻撃隊
(昭和20年5月4日 特攻出撃) 沖縄周辺艦船特別攻撃

姫路海軍航空隊

1 区 隊 直 率 区 隊 長 白鳥鈴雄 候補生			
1 番 機 (リ) 候補生 中西 要	候補生 白鳥 鈴雄	二飛曹 朝生 和男	
帰着 2 番 機 (リ) 二飛曹 桑原 敬一	候補生 木下 栄蔵	二飛曹 栗永 照彦	

八幡隊戦闘詳報 菊水第六号

神風白鷺誠忠特別攻撃隊

姫路海軍航空隊

(昭和20年5月11日特攻出撃) 沖縄周辺艦船特別攻撃

1 区 隊 直 率 区 隊 長 木下 栄蔵 候補生

不時着	1 番 機 (リ)	) 二飛曹 桑原 敬一	候補生 木下 栄蔵	二飛曹 栗永 照彦
帰着	2 番 機 (リ)	) 候補生 小田野正之	候補生 松井 龍郎	二飛曹 斎藤儀三郎
帰着	3 番 機 (リ)	) 二飛曹 藤沼 良平	候補生 田中幸雄門	二飛曹 細野 登一

この攻撃を似て姫路海軍航空隊の飛行機は21機突入し、63名の尊い生命が失われた。
そして、姫路海軍航空隊の名称も昭和20年5月5日を似て無くなった。

姫路海軍航空隊 司令 露木 専治大佐

おわりに

動の昭和は終わり、先の戦争を反省した平成も間もなく終わる。平和の日本を信じつつ彼らは沖縄の海に、空に若き命を散らした。命の大きな重みである。次元の違う若人たちは今の価値観で彼らを批判することは許されない。愛する祖国に残した親、兄弟の事を思いひたすら国を守ろうとした。再び戦争の惨禍がないことを祈り、遠い雲の彼方から彼らは祈っている。今の平和な鞆野の台地の風景を、彼らは見る事ができなかった。この遺書は姫路海軍航空隊白鷺隊隊員たちの最後の叫びとして、後世に書き遺し多くの人に見ていただき、平和な日本の国が続くことを祈念するものである。

参考文献

『第一期飛行専修予備生徒の
姫路海軍航空隊記』

『第一期飛行専修予備生徒会資料』

『第十三期飛行専修予備学生会資料』

『第三十七期飛行術練習生戦友会
姫路空の思い出』

『今に残る姫路基地』

『靖国神社 言の葉遺書集』

文献協力

鹿屋航空基地史料館

株式会社潮書房光人新社

写真協力（敬称略）

前田 一二

藤原 昌

佐藤 栄一

溝川 博江

上谷 昭夫

増田 栄次

小田野 正之

山本 登

水川 通

高倉 条作

編集協力

上谷 昭夫

船岡 裕花

姫路海軍航空隊白鷺隊

遺書・遺詠集

2019 年 3 月 第 1 版発行

発 行 加西市（兵庫県）

編 集 一般社団法人 鵜野平和祈念の碑苑保存会

この資料の複写・転載を禁ずる

